みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第３６号Ｅ

発行日
平成21年　6月１日

◇　目　　次　◇

Ｐ２　PV の会定期総会
Ｐ３　〃　聖崎観察会
Ｐ４　広瀬 AR 自己紹介
Ｐ５　RCC エコ･ウォーク
Ｐ６　宮島二流記　平田 広三郎
Ｐ７　大砂利から弥山登山道探索
Ｐ８　動物からのメッセージ
Ｐ９　〃　編集後記

写真家 藤原隆雄

横路 晃

中道 勉

舛田祐子

オオイワカガミ

破れ帽子を被った山の妖精オオイワカガミと出逢ったのは「おむすび山」の尾根だった。淡紅色の花は下向きに咲き、つやつやと光沢のある葉っぱに自分の顔を写し、その美貌にうっとりと見入っていた。このたび花の咲く五月、素人撮影会が開かれた。その時の作品である。（　中道　勉　）

環境の日　ひろしま大会

と　き：６月７日（日）10:00~17:00
ところ：広島市基町　広島県庁前広場
今年も環境省ブースに宮島地区パークボランティアの会から活動状況をパネル展示します。　　（広報部会）

PVの会 平成21年度総会

ＰＶ の会では４月４ 日（土）杉之浦公民館に於いて平成 21 年度定期総会を開催した。出席会員 37 名　委任状提出者４名（会員総数 47 名）。

（出席者）足立　池下　池田　岩崎　大成　小方ペア　小川　奥田　川崎　北野
五石　小林ペア　佐伯　佐藤　坂本　渋谷　島　末原　田中　富田
中道　中本　平田　平山　佛崎　舛田　松尾　丸平　宮崎　村上　森
柳瀬　矢吹　横路　六重部

（環境省）　西 自然保護官　広瀬 AR

新年度活動計画決まる

◎開会挨拶

定刻 10:30 分に開会。会員および新任アクティブレンジャーの広瀬さんの自己紹介に引き続き、村上会長から　オバマ米大統領のチェンジ・改革を引き合いに「エコとは何か。９回目の活動報告となるが、中身は幅広く、濃くなっている、PV 活動もチェンジしてきている」と開会挨拶。

西保護官よりは「準備とチエックが大事。21 年度活動計画も良く練られていて、新しいことも加わっている。新メンバーを９月より募集する。」と挨拶を頂く。

次に出席者数、委任状提出者数の確認を行い、進行役足立副会長から　総会成立の旨が宣言され議事に入った。

総会出席者の記念撮影

◎総会議事（議長　村上会長）

幹事会原案のとおり、次の４議案につき個々に報告、審議がなされ、前向きな意見は出されたものの　いずれも特に異議無く承認（総会決議）されました。

ア、平成 20 年度活動状況について
イ、　〃　決算（案）　〃
　野呂田監査役の代行 末原副会長から適正との監査報告
ウ、平成 21 年度活動計画（案）について
　各部会長から説明
エ、　〃　予算（案）について

◎意見等

・セブンイレブン助成金について
・ミヤジマトンボの回復状況について
・JPR に代わる子供・親子観察会の要望
・自然植生の回復実験・継続観察の提案
　（小なきり浜の海浜植物、大元モミ）

◎その他

足立・10 周年記念事業案の応募状況
　６月環境の日の PV ブース展示
中道・5/15 お島廻りの参加募集
　時雨桜、錫杖梅の状況
村上・自然解説員研修の事前の参加応募について

総会後の活動

12 時５分に総会を終了し、公民館前にて記念撮影。

午後からは恒例の環境整備部会主催の「小なきり浜」清掃を行う予定であったが、雨天のため中止とした。

入浜の定点観測には小川さんをリーダーとして PV４名、西保護官と広瀬 AR が初めてのこととあって参加されました。

（　岩崎 義一　）

「みせん」次号発行予定

発行日　　９月１日
原稿締切　　７月末日
皆さんの投稿をお待ちしています。

聖崎観察会

日　時　４月 25 日（土）13:00~16:30
参加者　井上　小方ペア　小川　小林ペア
　佐藤　末原　田中　富田　中道　野呂田
　村上　横路

雨模様の曇り空ながら出発。13 時 30 分福祉センターの先で山道に入る。ここには日本有数の低い（19.6m）三角点があった。（宮島には要害山、岩船岳、弥山にもある）三角点より少し引き返し、岬の上から徐福伝説のある蓬莱岩を望む、潮が引いていて一面の岩続きとなっている。

海面に浮かんでいる姿と趣が異なって見えた。その沖に 1844 年、宮島の有田 吉助氏により設置された小さな灯台がある。

14 時 20 分干潟に降りる。蓬莱岩のすぐ近くでアメフラシ、星型のイトマキヒトデ、イソギンチャク、岩一面に小さなイワフジツボがついている。オオヘビガイ、黄色いアメフラシの卵、ナマコも多く観察できた。しかしスガイ、イボニシ、カメノテ等は極めて少ない。「かき」の種苗場のある浜には、ホヤ、ムール貝が竹の杭にたくさんついていた。いろいろな海藻も多く、大なきり近くの磯ではアマモの群落があり、青や黒のナマコがたくさん生息していた。

こなきりの磯ではカゴノリが多くあった。16 時 15 分長浜神社前に到着。16 時 30 分解散する。

楽しく有意義な探検と観察が出来たことに、お世話くださった幹事さん方に感謝しながら桟橋に向けて歩く。しかし聖崎の崖下に昭和 15 年と読める陸軍の石標 2 本と浜辺に散乱する作業用のゴム手袋、軍手、針金などに心が痛む。皆様お世話になり有難うございました。　（　田中 敏子　）

新任アクティブレンジャー

広瀬さん プロフィール

名前　広瀬　理恵（ひろせ　りえ）
出身　五日市
趣味　歩くこと　観ること　考えること　作ること
自慢　指紋が全部円を描いていること

〇宮島との関わり

祖母が宮島に住んでいることもあり、幼い頃より一番訪れている島です。花見に海水浴、山へわらびを取りに行ったり、海へ天草や海苔をよく取りに行っていました。先祖は平清盛が京から福原を経由し、宮島に訪れた際に同行した武士の一人だそうで、厳島神社入口右側にある手洗い場は先祖が寄贈したものだそうです。その反面、植生や歴史については知識がないので、これから頑張ります！

〇これまでの履歴

大学時代は美術教育と彫刻を勉強しました。本来なら美術教師になるべきところなのですが、学生時代から環境問題、動物保護に関心があり、卒業後はオーストラリアで環境ボランティアを行いました。帰国後、さらに世界の大自然、異文化や価値観を自分の眼で観たいと思い、2 年間英会話スクールに勤務したのち、単身世界一周旅行に出掛けました。

オーストラリア・ニュージーランドでは、主にエココミュニティや自給自足の生活を送る家を訪れ、持続可能なライフスタイルや有機農業を学びました。その後は南米・欧州・アジアを廻りましたが、オーストラリアでの干ばつをはじめ、各国での異常気象は旅行者の私にも感じられるほどでした。欧州では、地産地消は定着し、自然エネルギーや水素バスを導入するなど温暖化対策が進んでいるのに対して、途上国ではまさに戦後の日本と同じく、経済発展中心で、無駄遣いが多く、町もゴミ捨て場のような現状でした。

しかし、途上国の何十倍ものエネルギーを消費している先進国の私たちが注意を促しても全く説得力のない話です。日本のような経済大国が環境対策を行うことが急務なのだと感じ、日本に帰国し、環境保全活動をしていきたいと考えました。

〇ひとこと

広島は平和の象徴でもあると同時に、豊かな自然に囲まれた地域です。特に宮島は稀少な自然と文化が融合した場所であり、私も思い入れがある場所です。

まだまだ知識も経験も浅く、皆さんにご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

鷹ノ巣高砲台跡清掃

日時　　5 月 16 日（土）9:00~12:00
参加者　井上　岩崎　大成　小川　川崎
　小林（勗）島　末原　中道　野呂田
　平山　前田　舛田　村上　横路
　環境省　西 保護官　広瀬 AR

当日は天気も良くなく午後からは幹事会も予定していたため、午前中だけでも作業をすることにしました。

作業は砲台跡地と監視所への連絡道の清掃と指令所通路及び砲台周囲通路のシダ刈りを行いました。　　（　末原 義秋　）

高砲台跡清掃参加者

ミヤジマトンボ生息地環境保全

日時　　5 月 9 日（土）9:00~15:30
参加者　小川　末原　中本　舛田
　環境省　西 保護官　広瀬 AR

宮島南西部のミヤジマトンボ生息地の環境保全作業を関係団体総勢 14 名で昨年整備した、水路の土砂除去と土のう積みを実施しました。　　（　末原 義秋　）

RCC エコ・ウォーク
春の宮島を満喫

開催日時　3 月 14 日（土）8:30~15:00
PV 参加者　足立　井上　岩崎　大成　小方
ペア　小川　北野　小林ペア　佐伯　佐渡
佐藤　島　末原　田中　中道　野呂田
平田　舛田　丸平　村上　横路　六重部
環境省　桑原自然保護官　藤本 AR

前夜、80%の降雨確率だったが当日は空も少しずつ明るくなり、一般参加者 46 名 PV 24 名、RCC スタッフ 8 名でＲＣＣ社長のエコ・ウォークの取り組みの説明及び村上会長より宮島の植物の特異性の説明があり準備体操をして出発をする。

コースは「紅葉谷―博打尾―包ケ浦」です。紅葉谷では昭和 20 年に起きた土石流の被害の後の自然に配慮した堰堤工法を平成 17 年に大被害があった大聖院コースの復旧にも用いられたと言う話しがあった。博打尾コースのなかお橋よりホウロクイチゴ、ミミズバイ、モミノキ、などが見られ、ツチグリも見つけた。ホウロク鍋の説明は理解を得られなかったようだ。年代の差を感じてしまった。振り返るとはるか向うに見えるロープウェイがネックレスのように繋がっているのがよく見える。コシダをかき分けながら登り続ける。崖地とか法面（のりめん）は殆ど鹿に食べ尽され残っているのはアセビ、シキミ、などの有毒植物や強い匂いがするレモンエゴマです。

11 時 30 分頃博打尾根に到着する。鹿に食べられて伸びることの出来ない松、誰が付けたか「鹿盆栽」ここで今日のメインの一つの毛利元就の厳島合戦の話しを中道さんと大成さんにしていただく。「歴史は勝者によって作られる」という言葉に納得するものがある。見晴らしの良い所からエメラルドグリーンの包ケ浦がきれいに見えた。参加者の中には一生懸命メモしている人、又花の写真を見てもらうと「咲いている時期にもう一度来てみたい」と言う嬉しい声も聞かれた。

樹木名が記入されたマップが非常に喜ばれた。12 時 30 分に包ケ浦キャンプ場で小雪が散らつき風は強く寒い昼食となった。

昼食後、「鹿について」の紙芝居をしてもらう。午後から包ケ浦海岸を全員でゴミ拾いをする中でカキ養殖のプラスチックパイプの多いのにあきれる。自然の恩恵、自然を守ることの難しさなど色んな事を感じる一日でした。

（　小林　勗　）

案内役の各班リーダー

シカの紙芝居をみる参加者

大成さんの厳島合戦説明

宮島二流記

平田 広三郎

まえがき　これから書くことは、歴史本や冊子またはテレビなどで、時々宮島に拘わる断片的な言葉が散見されることがあり、その中で特に目に入った印象的な言葉について、その背景や事象を少し詰めてみようとしました。二流記と名付けたのは、新事実を求めるなどというおおそれた気持でなく、先人たちの貴重な資料を借用して記すからです。許されるなら 5 回程度の連載とし、印象的な言葉を基に質疑応答形式で進めていきます。

Q1：「厳島合戦（弘治元年、1555 年）」では鉄砲が使われたでしょうか？

本題を書くきっかけとなったのは「日本の名匠（海音寺潮五郎、中央公論新社）」鉄砲伝来異聞の項に 2～3 行陶軍の鉄砲について記述があったからです。

A1：使われたようです。鉄砲は天文十二年（1543）八月種子島に漂着したポルトガル船により伝えられたとされるのが定説となっており、合戦はそれから 12 年後のことです。

厳島合戦は、山口の大名・大内義隆を殺めた直情型・陶晴賢にとって宮島の掌握は、経済権益の拡充とともに厳島の神威の獲得に必要であり、一方　謀略型・毛利元就にとっては、陶方の大軍を宮島に引き寄せ小兵力の奇襲により打ち破れる唯一の機会であるとの思惑の衝突といえると思います。

両者が戦う直前の状況を見てみますと、毛利方が弘治元年六月宮島に宮尾城を竣工させ、厳島神領衆の己斐豊後守ら三百余名に立て籠もらせ陶方の来襲を待たせています。

弘治元年九月二十一日、陶晴賢は二万数千人の大軍を率いて岩国から宮島に上陸し、塔ノ岡を本陣とし、毛利方の宮尾城の攻撃にかかりましたが、いざ攻めてみると、城中の毛利方は城から逃れでる方法もない絶体絶命の立場にあるため、必死に防戦しビクともしません。陶方は攻めあぐんだ結果秘密に持っていた鉄砲を六・七挺もち出して打ちかけたので、これには流石の城兵も慌てふためきました。しかし　城兵は、夜に入り陶方の陣地に近づき、気づかれて鉄砲は奪い損じたが、火薬を奪い取ることに成功しています。

毛利元就は、宮尾城の味方と自分が率いる上陸軍とで陶方を挟み撃ちする計画であったため、二十七日宮尾城の救援に赴かせています。城中に入った者が城内の状況をみると、塀の内側に土俵を高く積み上げているので理由を聞くと、南蛮わたりの鉄砲五・六挺で撃ってきて、その筒口より煙をはき声は雷の如く、夜は炎のみほと走り電光の如し、楯など五・六枚重ねても薄紙のようにつき通り、甲冑など着ていても何の役にも立たず、それで土俵を重ねたりと新来の鉄砲の威力を語ったとあります。

以上が鉄砲の使われた時の状況ですが、頼山陽は日本外史巻十二毛利氏の項に、「城兵嬰壁守、賊有鳥銃七口、櫓楯不支、積土豚扞之」（意訳すれば、城兵壁により堅く守り、陶方に鉄砲 7 挺あり、楯で支え切れず、土俵を積み防ぐ、でしょうか）と記しています。原典となると、村上水軍系の従軍記「三島海賊家日記（武家万代記）」と毛利方直轄水軍河の内警固衆の「厳島合戦記（万代記）」あたりではないかと思われます。

その後のことは、十月朔日未明における毛利方決死の奇襲で陶方はほとんど壊滅したのは、ご存じのとおりです。

一方　毛利方の鉄砲の使用については、永禄八年（1565）の尼子氏を攻めた月山富田城包囲戦に二百人の鉄砲隊を使ったという記録があります。

また　鉄砲三千挺の三段撃ちで有名な織田・徳川連合軍と武田勝頼軍が戦った長篠の戦いは天正三年（1575）のことです。

（参考文献）

・厳島大合戦　広島郷土史研究会編
・棚守房顕覚書付解説　福田直記

次回は Q2「ハンゲショウ餅ってあるでしょうか？」です。毎年 4 月の総会が終った後清掃する、こなきり浜に自生しているハンゲショウを題材とします。

厳島合戦

大砂利から
弥山登山道探索

日　時　　２月 21 日（土）9:00~17:00
参加者　　井上　岩崎　小方（嗣）川崎
　　北野　近藤　佐伯　佐藤　島　末原
　　中道　野呂田　佛崎　舛田　村上
　　横路　六重部

久し振りの晴天に恵まれた２月 21 日、大砂利～弥山登山道の探索が行われました。

桟橋から入浜までタクシーを利用し、入浜から大砂利までは、満開となったアセビの白い花とヤブツバキの赤い花を楽しみながら、ウォーミングアップを兼ねた歩きです。.

大砂利では、いつもとは逆方向からの獅子岩の眺めをバックにして全員で記念撮影を終え、いよいよ登山開始です。

少し山に向かって進んだ所で、みかん農家のおばあさんから甘柑を頂き、その甘酸っぱい味に感激です。

沢沿いに進路を取り、赤いテープを確認しながら登っていきます。途中シキミの白い花やトサムラサキの紫色の実を見つけました。沢沿いにはヒトモトススキも見られました。

１時間もたたないうちに、だんだんとルートがはっきりしなくなってきました。古くなった赤色テープを見つけながら少しずつ進みます。ついに赤色テープも道らしきものも見つからなくなり、不安の影がよぎります。コシダの茂る山の斜面をヤブコギしながら、手分けしてルートの探索です。見晴らしの良い地点に出て一息入れ、現在位置を確認しながら昼食です。その後、先発隊が何とかルートらしきものを見つけ、その後を全員ついていきます。約 30 分後、予定地点より北寄りの、25 町石のあるところに到達でき、やっと全員に笑顔が戻りました。

それからは全員足取りも軽く、奥の院に立ち寄って、今日の登山の安全無事を感謝した次第です。時間に余裕があったので、前峠を経由して大元公園へと戻ってきました。

皆さんお疲れ様でした。（　佛崎 勝弘　）

獅子岩をバックに記念撮影

おおの自然観察の森
観察会と撮影会

日時　５月２日（土）10:00～14:00
場所　おおの自然観察の森　おむすび岩
参加者　岩崎　小川　末原　富田　中道
　　文理　舛田　村上　横路
講師　弥山倶楽部　写真家　藤原隆雄先生

自然観察センターで基本的な写真の撮り方を教わった写真同好会の一行は小鳥のさえずりを聞きながら「おむすび岩」に辿り着いた。そして新緑の匂いを含んだ風を吸いながら「おむすび」を食べた。

食後急な坂道を下りかけると細い道脇に紅色や白い花をいっぱいに咲かせているオオイワカガミが私達を待っていた。やがて静かな森にシャッター音が鳴りやまなかった。

（　中道　勉　）

ハートフルウォークに協力

4 月 8 日（水）実施の宮島のんびりハートフルウォークに PV からインストラクターとしてつぎの 7 名が参加しました。

井上 佐藤 末原 中道 野呂田 平田 横路

宮島 IP 研修会開催

日時　8 月 22 日（土）時間未定
場所　中央公民館・神社周り干潟
講師 自然教育センター古瀬 浩史氏
著名な講師を招きインタープリテーション研修会を実施しますから多数ご参加ください。

平成２０年度ＰＶ活動記録

平成 20 年 4 月～21 年 3 月

	開催日	行　　事	参加人数	備　考
総会等	4/5（土）	平成 20 年度定期総会	44	小なきり浜清掃
	12/6（土）	臨時総会、役員改選・研修会	33	応急手当について
観察部会	5/17（土）	公募観察会の下見（神社周り）	12	本番は雨天中止
	6/7（土）	入浜自然調査	9	
	6/22、7/5	海岸調査大砂利、元宇品	12	
	8/30(土)	干潟観察会（大砂利）	8	
	10/4（土）	観察会“入浜探検隊”	14	
	11/27（木）	おおの自然観察の森	5	
	H21 1/25（日）	武田山観察会	19	初めての武田山
	2/11（祝）	町石・植物見直し調査	20	
	3/14（土）	RCC エコ・ウォーク in 宮島	24	一般参加 46 名
環境整備部会	6/7（土）	鷹ノ巣砲台跡清掃、整備	14	
	7/12（土）	包ヶ浦海岸清掃	29	
	8/3（日）	自然公園クリーンデー	19	
	9/6（土）	樹木名板保守点検	20	
	9/24（水）	大聖院登山道清掃	13	3 年ぶり復旧登山道
	10/25（土）	紅葉谷公園内の歩道補修清掃	18	
	12/13（土）	弥山登山道の補修・清掃	22	
	H21 2/21（土）	大砂利・弥山道探索	17	
その他	9/15（祝）	ＪＰＲ活動支援・元宇品	6	
	10/12,10/13	海岸生物調査、大砂利・元宇品	8	

データでみるＰＶ活動状況

（平成 20 年 4 月～21 年 3 月）

全活動回数　24　**会員数** 47

平均参加回数　8.9 回

16 回以上参加　7 人

9 回～15 回参加　19 人

8 回以下　21 人

RCC エコロジー大賞

この度、宮島地区パークボランティアの会 長年に亘る環境保護への熱心な取り組みが評価され、RCC エコロジー大賞を受賞することが決まりました。

6 月 19 日（金）表彰状と賞金 30 万円が授与されます。

動物からのメッセージ

K、小川 記

市街地の人馴れしたシカやタヌキを除くと、宮島の野生動物を間近で見ることは殆どありません。しかし、彼らの暮らしぶりは、糞、足あと、食べあと、巣穴などのフィールドサイン（生活の痕跡）や死体などから想像することができます。

１、イノシシ

これまで宮島にいなかったイノシシが、今年１月入浜で、4 月に奥の院で目撃されました。入浜といえば当会の活動場所。実は昨年 11 月 15 日、干上がった調査地点が浅く掘り返され（図１）、12 月 23 日には池周囲がかなり激しく掘り返されヒトモトススキの根元はトンネル状になっていました。入浜には人を見ると逃げてしまうシカの群れがいて、糞や足あとが多く残っており、ぬた場もあります。イノシシの糞はそら豆がくっついたような形で、足あとやぬた場も

シカと似ており、区別できないことも多いそうです。トンネルを作ったのはシカではないと確信しましたが、イノシシとは判断できませんでした。今年２月 11 日の PV 活動中に奥の院へ行ったときも落ち葉の多いところが掘り返されていました。

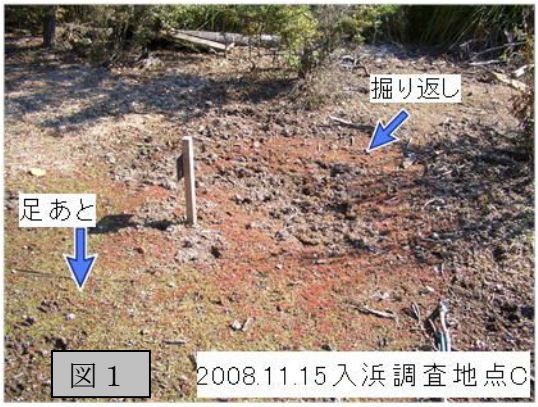

図１

４月のイノシシの目撃情報を受け、中道さんは奥の院と入浜に行き、掘り返しあとと足あとを撮影されました（図 2）。足あとにはイノシシの副蹄がくっきり、シカとの違いが明瞭です。

図２　09.4.23撮影（中道）

この他のイノシシの特徴的なフィールドサインとしては、ぬた場近くで樹木へ体をこすり付けるためにできる泥こすりあとがあります。

次の PV 活動時、フィールドサインを手がかりにイノシシの宮島暮らしを想像してみませんか。

２、子ジカの死体

３月 14 日 RCC エコ・ウォークの日、包ヶ浦で骨だけになった子ジカの死体を会員が発見。小さな体でした。同じ場所に第１胃の内容物がありました（図３）。色や太さなど様々なヒモが絡み合った塊で、全体に緑色のものが付着していました。１ヵ月後も下顎骨が残っていたので観察しました。軟らかい部分には、他の動物が囓りとったような痕があります。直接の死因は不明ですが、プラスチックなどのヒモで満たされた胃の持ち主が健康であったとは思えません。

図３

09.3.14撮影（中道）

◇ 編　集 後 記 ◇

最近、県内の大学で宮島学を研究テーマとするのがブームになっているようだが、先日の RCC エコ･ウォークでの厳島合戦の説明は評判良かったし、今号の平田さんの記事のように PV でも宮島の歴史をもっと売り出してもよいのではなかろうか。　（　足立　）

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局　環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

（〒730-0012）
広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎３号館１階
TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町 1162-18
（宮島桟橋２Ｆ）